

令和5年度 学校評価(教諭用)

沖縄県立美咲特別支援学校

幼小学部60名 中学部25名 高等部55名 計140名

所属学部(幼小中高教諭)n=140/180 77.7%

【 集計結果 人数 】

【 集計結果 % 】

領域	No	評価項目	①	②	③	④	①十分達成している ②ほぼ達成している ③あまり達成していない ④達成していない
学校運営	1	学校経営方針を踏まえ、教職員間で協力・協働し、教育活動の充実や学校課題の解決に向けて取り組んでいる。	33	98	7	2	
	2	校務の遂行にあたり、情報の共有化や関係分掌、事務現業職員、管理者等と連携して組織的・計画的に対応している。	40	89	9	2	
	3	日頃の言動等について、幼児児童生徒の人権に配慮した対応を意識している。	54	83	3	0	
	4	体罰防止、個人情報保護、守秘義務等の法令遵守の徹底に努め、私費会計等については適正に処理している。	73	66	1	0	
	5	「働き方改革」推進にあたり、組織及び個人としての業務等の精選や負担軽減等について、工夫・改善に取り組んでいる。	15	60	49	16	
	6	年休や病休、特休(看護休等)、介護休が取得でき、同僚・管理者・産業医への相談等、職員のメンタルヘルス対応について、職場で周知及び実施がなされている。	40	78	16	6	
	7	学習指導要領を踏まえて編成した教育課程を理解し、系統性・一貫性のある教育活動に向け、学級・学年・教科・学部間で連携して取り組んでいる。	36	91	12	1	
	8	各教科の指導において、幼児児童生徒個々に応じた「個別の指導計画」を作成し、授業で活用して、学習評価を行っている。	49	87	4	0	
	9	自立活動の指導において、幼児児童生徒個々の実態から課題を的確に捉えた「個別の指導計画」を作成し、授業等で活用し、学習評価を行っている。(流れ図等を作成・活用している)	32	97	11	0	

教育活動・学習指導・進路指導	10	分かりやすい授業の創意工夫を図り、幼児児童の興味・関心を活かした主体的・対話的で深い学び等に向けて授業改善に取り組んでいる。	62	71	7	0	
	11	校内研修の充実及び研究授業等による授業改善に取り組み、主体的・自主的に専門性の向上に努めている。	41	87	11	1	
	12	ICTを活用した授業や情報モラル等について幼児児童生徒の実態に応じた指導を行っている。	34	81	24	1	
	13	図書室の利用、読書活動等を通して言語活動の充実に努めている。	43	68	27	2	
	14	幼児児童生徒個々の将来を見据え、保護者・関係職員、外部機関等と連携し、キャリア発達の段階に応じた進路指導(キャリア教育)を計画的に行っている。	40	82	18	0	
生徒教育指導	15	保護者や幼児児童生徒等、相談者のニーズに応じた教育相談・就学相談に対応している。	49	85	6	0	
	16	不登校及び問題行動等について、早期発見・未然防止に努め、学年・学部、生徒指導部・支援部、管理者等と連携し、早期解決に向け、組織的に対応している。	47	89	4	0	
	17	いじめについて、早期発見・未然防止に努め、学年・学部、生徒指導部・支援部、管理者等と連携し、早期解決に向け、組織的に対応している。	51	85	4	0	
保護者連携	18	幼児児童生徒個々の教育的ニーズに応じた「個別的教育支援計画」を作成し、活用して教育活動の充実に努めている。	56	79	4	1	
保護者連携	19	PTA活動について、教職員・保護者間で連携しながら取り組んでいる。	38	82	18	2	

健康・安全	20	給食は幼児児童生徒の健康・栄養・食育について工夫されており、給食指導に関して栄養教諭・養護教諭と連携を図っている。	65	64	10	1	
	21	性教育・保健教育(薬物乱用防止、心のケア等)や各種感染症の予防について、幼小中高各学部の発達段階に即した指導を行っている。	33	88	18	1	
	22	緊急時・災害時の対応について、幼児児童生徒の実態に即した訓練及び指導を行っている。	58	77	5	0	
	23	安心・安全な教育活動のため、普段から危険予知を心掛け、施設・設備の点検・改善及び環境(校内美化)の維持に努めている。	47	90	3	0	
	24	スクールバスの安全に留意した運行に向け、保護者・バス部等との連携を図っている。	56	80	1	3	

学校全体の考察

①	<p>幼小中高140名(77.8%)から回答を得た。◎○を良好な評価、▲×を改善が必要な評価として考察する。回答率については、自己評価の趣旨を踏まえ周知及び回答期間の工夫を行い向上を目指す。</p> <p>全24項目のうち22項目が80%以上の達成状況となった。特にNo.3「人権意識」、No.4「法令遵守」、No.23「安全管理」で98%以上の高い達成率を示していた。美咲特別支援学校の個々の職員が教育活動を行う上で、今後も幼児児童生徒の教育の充実、安心安全な教育環境に向けた共通認識を持って、その土台となる基盤を維持していく。</p>
②	<p>「学校運営」の領域におけるNo.5「働き方改革」では、「良好な評価」(十分達成している、ほぼ達成している)が54%、「改善が必要な評価」(あまり達成していない、達成していない)が46%であった。各学部においても同様の傾向が見られ、学校課題として受け止め、過大規模校ならではの過密化・狭隘化からくる課題や各学部の要望として挙げられた業務削減の視点での課題について検討していく必要がある。ワークライフバランスの取れた職業意識を持ちつつ、幼児児童生徒と向き合うことによって教育効果を高めていくことを目指し、保護者や学校外の関係機関へも協力を呼びかけ、学校運営の工夫改善を図っていく。</p>
③	<p>「学習指導」の領域のNo.13「言語活動の充実」(改善が必要な評価 21%)については、図書室利用、読書活動等に特化することなく、各授業における幼児児童生徒の思考力・判断力を高める視点からの言語活動の充実を図ることを確認し、今後の改善点とする。本校で実施している「みさきプライド」や「ちゅらマナー週間」などの取り組み等で重視している挨拶も、幼児児童生徒の言語環境を整える基盤として有効に活用していきたい。</p> <p>言語活動の充実に向けて取り組むことは、幼児児童生徒の言葉や情操を豊かにするだけでなく、助けを求める手段、相談するスキルを高める等、社会生活を行う上でも大切な要素となる。個々のキャリア発達に応じた言語活動に取り組むことで、本校が目指す幼児児童生徒の姿の実現に繋げていく。</p>
④	<p>No.8「学習指導」においては、「各教科の指導において幼児児童生徒個々に応じた『個別の指導計画』を作成し、授業で活用して学習評価を行っている」で回答者の97%が良好な評価を示していた。</p> <p>No.10「授業改善」でも95%の教諭が分かりやすい授業づくりに取り組んでいる認識を示しており、このことは、児童生徒のアンケートでもNo.5「学習指導」(授業はわかりやすい。先生は丁寧に教えてくれる)で93%の子どもたちが良好な評価を示していることと共通する。</p>